

News Letter

2022年

5月

中国四国農政局
山口県拠点

もうすぐ麦の収穫が始まります！

～KSASを活用した麦の品質向上に向けた農事組合法人二島西の取組～

山口県内では間もなく麦の収穫シーズンを迎えます。麦の生産が盛んな山口市の秋穂二島地域で、スマート農業を活用した麦の品質向上に取り組んでいるのが、農事組合法人二島西です。ほ場整備面積約140ha、ほ場整備関係農家数162名を誇る同法人は平成28年からスマート農業に着手しました。ほ場全体のデータをトータルで把握するだけでは、豊作・不作の細かい要因の把握が困難であり、ほ場毎にデータを管理する必要があるとの問題意識を持ったことがきっかけでした。

KSAS（クボタスマートアグリシステム）とは？

インターネットで地図情報を活用し、圃場管理や作業記録をしたり、KSAS対応機と連動して品質・収量の向上と、機械の順調稼働をサポートするシステムです。



KSAS対応のコンバインを3台所有

現在は収量食味センサー付きコンバインを使用して、ほ場ごとの収量、タンパク含有率を収穫をしながらデータ化しています。KSASによって、ほ場登録データから反収を算出し、ほ場毎の収量・品質のバラツキを把握することで、改善が必要なほ場を確実に把握し、次年度の播種時期や施肥量のきめ細やかな改善に結びつけています。

修繕費が高額になる等の課題もありますが、同技術の活用により、省力化、生産状況の見える化だけでなく、企業イメージの向上にもつながっているとのことです。ドローンやICT対応田植機の活用も開始するなど、積極的にスマート農業に取り組む同法人の活躍に期待が集まります。



収穫と同時にタンパク含有率や水分量等が表示され、収集されたデータはKSASに自動送信



豊かに実った麦の様子

地域農業の課題解決の取組をきっかけに、始めてみませんか？ ～被覆肥料プラスチック殻の流出防止について～

農林水産省は、環境負荷の軽減を図りつつ、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定し、化学農薬・肥料の低減や温室効果ガスの削減など環境にやさしい農業技術を地域ぐるみで導入するモデル的先進地区の創出等の取組を推進しています。

この取組例として、被覆肥料プラスチック殻の流出防止対策の検討があります。

被覆肥料とは、表面をプラスチックなどで被覆している肥料で、農作業の省力化や施肥量の削減につながるといったメリットがありますが、肥料が溶け出した後のプラスチック殻がゴミとして流出し、海洋汚染の要因となることが指摘されています。



プラスチック被覆肥料

ホームページでは、プラスチック被膜殻流出防止の対策の事例を紹介したビデオも公開していますので、是非、ご覧ください。



落水口にこのような網の張り方をすることで対策になります！
(材料はすべて百均で揃います)

被覆肥料対策について（中国四国農政局HP）
<https://www.maff.go.jp/chushi/seisan/kankyo/hifuku.html>

被覆肥料対策の配布用チラシ（中国四国農政局HP）
https://www.maff.go.jp/chushi/seisan/kankyo/attach/pdf/hituku-1_r.pdf



ここまで進んだ！スマート農業 ～ドローンを活用した直播の実証会～

長門市油谷のほ場で、一般社団法人アグリながと主催による『スマート農業実証事業実演会』が行われました。この取組はドローンを使った湛水直播栽培（※）で、大幅な労力削減を目指すものです。

（※）水を張った水田に種籾を直接播種する方法

当日は、あいにくの空模様だったものの、100mを僅か15秒程度で播種し、かなりのスピード！

40aの圃場を4条播きにより10分程度で播種を終わらせるなど、田植えにかかる作業時間を大幅に短縮しています。



ドローンを使用した直播の実演の様子

農林水産省ホームページでもスマート農業について紹介していますので、ご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/>

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 山口県拠点

〒753-0088 山口市中河原町6-16

TEL (083)922-5404 FAX(083)934-1120 <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>